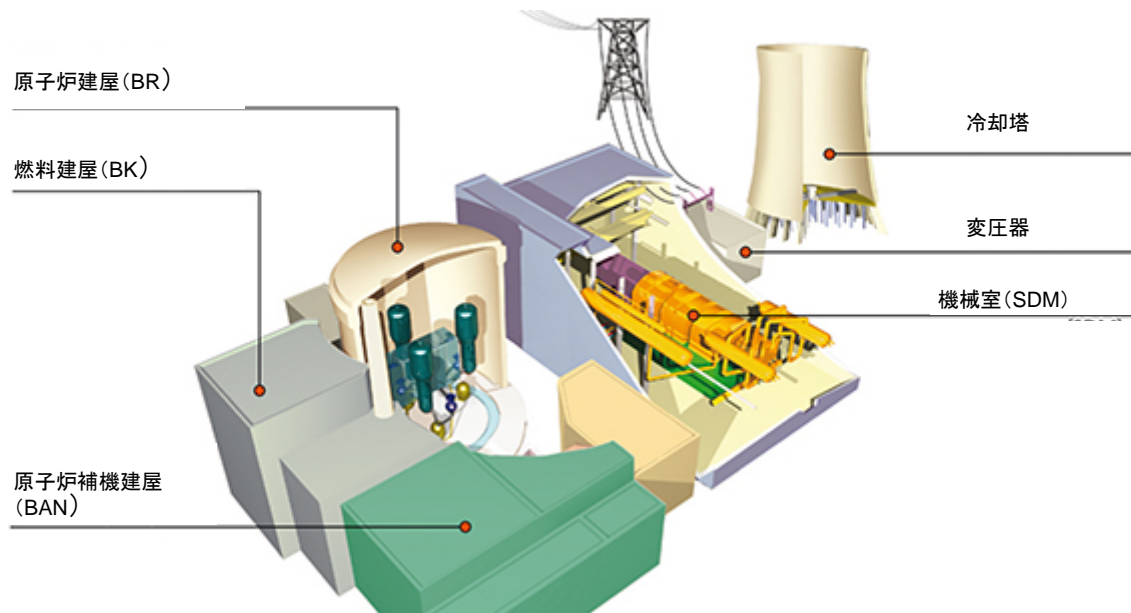


## ブュージェイ原子力発電所の5号機の交流発電機から出火

パリ発、2013年6月24日

Newsletter

2013年6月24日、施設の非原子力区域に設置されている5号機の機械室の交流発電機<sup>[1]</sup>で13時15分に火災が発生した旨、ブュージェイ原子力発電所の事業者から原子力安全機関（ASN）に通報があった。



ブュージェイ原子力発電所5号機の概略

発電所の対応チームと外部の救護チーム（エン県とイゼール県の消防及び救護組織）が動員された。人員は4号機と5号機が共用する機械室から直ちに避難した。

13時23分、オンサイト緊急時計画が発動され、当直人員を動員しサイトで発生する事象を管理する強化チームが編成された。施設のオフサイト緊急時計画（PPI）は発動されなかった。

5号機の自動停止が起動し、目下、原子炉は個別の運転手順で安定状態に維持されている。EDFは、15時30分、鎮火をASNに通報してきた。

この事象による人員への影響はなかった。また、放射性物質の環境内放出も発生しなかった。

**[1]** 火力発電所又は原子力発電所では、1台ないし数台の交流発電機で発電が行われる。エネルギー源で生成される蒸気によって各タービンが発電機を駆動する。発電機は固定部と回転部で構成され、機械エネルギーを24,000ボルトの電気に変換する。発電機は運転中に加熱するため、固定部と可動部の間を循環する4バールの加圧水素と水で冷却する必要がある。非常に引火しやすい水素の漏れは、加圧オイルの循環で防止している。

